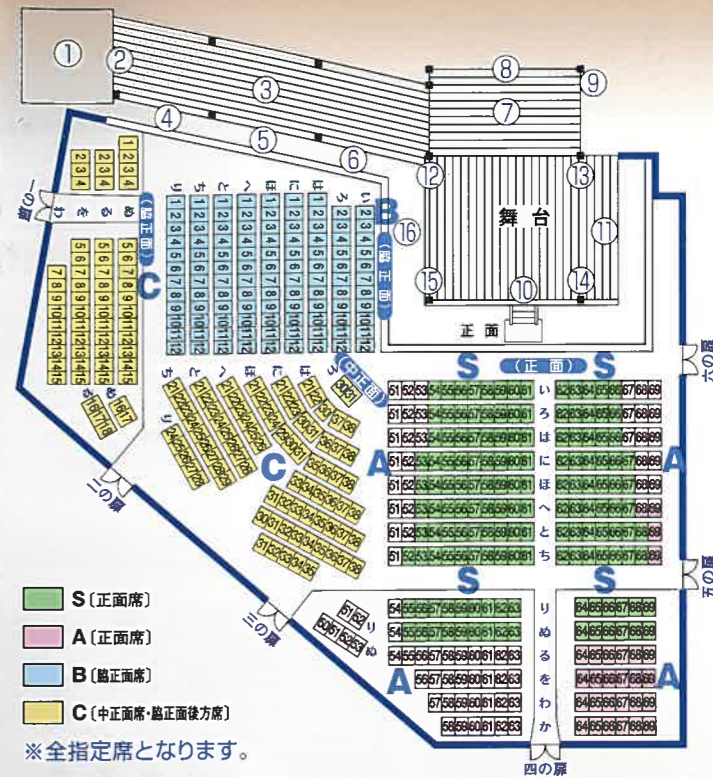


宝生能楽堂座席表(舞台平面図)



■ 舞台平面図

- |       |          |       |       |
|-------|----------|-------|-------|
| ① 鏡の間 | ② 揚幕     | ③ 橋掛り | ④ 三の松 |
| ⑤ 二の松 | ⑥ 一の松    | ⑦ 後座  | ⑧ 鏡板  |
| ⑨ 切戸口 | ⑩ 階(きざし) | ⑪ 地謡座 | ⑫ シテ柱 |
| ⑬ 笛柱  | ⑭ ワキ柱    | ⑮ 目付柱 | ⑯ 白州  |

**能楽堂とは**  
能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間(約6m)四方の本舞台を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた鏡板をもち、左側に長さ四間ほどの橋掛りを備えた独特な形をしています。  
この能舞台は元々屋外にあり、野天の白州や対面する建物が客席になっていましたが、明治以降、屋根付きの舞台と付随する楽屋、客席ごと建物に収容され、能楽堂と呼ばれるようになりました。  
昔ながらの屋外舞台も全国に数十カ所現存しています。

[チケット料金](税込) 全席指定

- S席 ..... 8,000円
- A席 ..... 6,000円
- B席 ..... 5,000円
- C席 ..... 4,000円

※各座席区分は前ページ座席表をご参照下さい。  
※本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。

[チケット発売開始日]

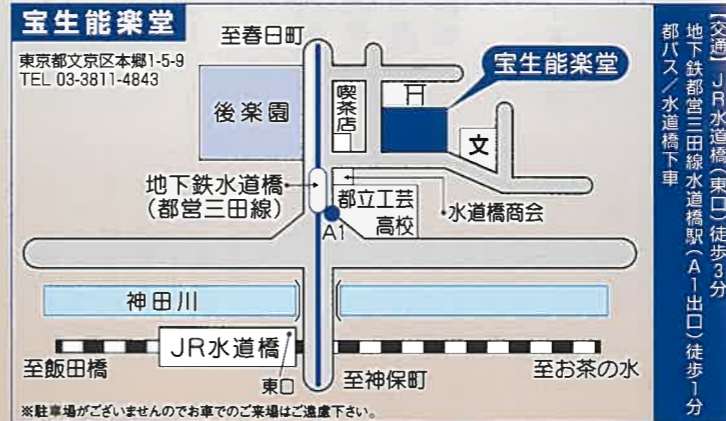
4月17日(金) 午前10時より

[チケット取り扱い] ※販売は下記に限り承ります。

- ◆ 電話  
チケットスペース ▶ 03-3234-9999 (有人対応)
- ◆ インターネット  
e+イプラス ▶ <http://eplus.jp/> (PC・携帯共通)
- ◆ 店頭  
e+イプラス ▶ ファミリーマート全国各店舗 店内 famiポート

[前売チケット発売期間] 4月17日(金)~7月10日(金)

◎前売チケットは販売期間終了前に完売することもあります。予めご了承ください。



◆ 公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承ください。  
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <http://www.nohgaku.or.jp/>

能親世流「鶴亀」  
親世録之丞

能喜多流「通小町」  
友枝 昭世

ユネスコによる  
人類の無形文化遺産「能楽」

# 納涼能

第四十三回

2020年7月17日(金)

開場/午後1時 開演/午後2時

## 会場 宝生能楽堂

主催/公益社団法人能楽協会 東京支部

ごあいさつ

納涼能は本年第四十三回を迎えました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。今回も、シテ方五流総出演を願い、ごなたにも理解しやすい曲目を選び、能楽師によるミニ講座を設け、当支部ならではの企画となっております。お暑い時期ではございますが、能楽に親しむ良い機会かと存じます。万障お繰り合わせの上、ご来場賜りますようお願い申し上げます。

東京支部長 朝倉 俊樹

撮影「鶴亀」吉越 研 「通小町」あびこ写真店

番組組

〈開演 午後二時〉

三二講座 大島 輝久

能(観世流)

子方(鶴) 谷本悠太郎  
子方(亀) 谷本 康介

鶴 亀

シテ(皇帝) 観世鏡之丞

ワキ(大臣) 殿田 謙吉  
ワキツレ(從臣) 則久 英志  
ワキツレ(從臣) 野口 能弘  
アイ(官人) 三宅 近成

大鼓 柿原 弘和 太鼓 梶谷 英樹  
小鼓 飯田 清一 笛 槻宅 聡

後見 馬野 正基  
野村 四郎

地謡

観世 淳夫 小早川 修  
角当 直隆 関根 知孝  
中森 貫太 山本 順之  
伊藤 嘉章 西村 高夫

狂言(大藏流)

文 蔵

シテ(主) 山本東次郎

アド(太郎冠者) 山本泰太郎

後見 山本凜太郎

休憩 二十分

〈三時五十五分頃〉

仕舞(宝生流)

忠 度

宝生 和英

地謡

大友 順  
金井 雄資  
佐野 登  
小倉健太郎

仕舞(金剛流)

井 筒

金剛 龍謹

地謡

熊谷 伸一  
坂本立津朗  
今井 清隆  
元吉 正巳

仕舞(金春流)

熊 坂

金春 憲和

地謡

辻井 八郎  
本田 光洋  
高橋 忍  
山井 綱雄

能(喜多流)

ツレ(小野町の霊) 長島 茂  
シテ(深草の少将の霊) 友枝 昭世

通小町

ワキ(僧) 宝生 欣哉

大鼓 亀井 広忠  
小鼓 田邊 恭資 笛 藤田 次郎

後見 香川 靖嗣  
中村 邦生

地謡

友枝 真也 友枝 雄人  
佐々木多門 粟谷 明生  
内田 成信 粟谷 能夫  
大島 輝久 金子敬一郎

附祝言

〈終了予定 午後五時三十五分〉

お願い

・場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。  
・場内では携帯電話の電源・時計のアラーム等をお切り下さいますようお願い致します。  
・出演者はやむを得ぬ事情により変更させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。

能 鶴亀

唐の玄宗皇帝の御代、うらかな新年を迎えた月宮殿では正月の祝宴が執り行われます。皇帝に仕える官人は皆に参内するようお願いを致します。

臣下を引き連れた皇帝が不老門より現れ、新春の日の光を眺めると、万民は天に響くほどの祝福の声を上げます。錦、瑠璃、瑪瑙などたくさん宝物を設えた豪華な宮殿は華やかな様子。臣下は通例の如く鶴亀を呼び出だして皇帝の長寿を祈った舞を舞わせると、皇帝も御感のあまりに舞樂を奏して舞を舞います。上人たちも合わせて舞樂を奏すると、皇帝は国土が山河草木に至るまで栄えることを予祝して、やがて長生殿へと帰っていかれました。

狂言 文蔵

唯一の召使い太郎冠者の無断欠勤に、一度は腹を立てた主人ですが、京内詣で外出していたと聞けば都の様子を聞いたと考え、許すことにします。京都の様子を話し、京に住む主人の伯父の家でお振舞いをうけた報告をする太郎冠者ですが、はじめて振る舞われた温糟粥の名を忘れ、主人が日頃読んでいた草紙の中にあるものを食べたと思ひ出します。主人は、太郎冠者が何を食べたのかを聞き逃げようと、長々と源平盛衰記の石橋山合戦物語を語ります。

仕舞 忠度

藤原俊成の身内に居た者が俊成逝去後に出家し、須磨の浦に立ち寄り、一人の老人に出会います。老人は桜の木陰が一夜の宿になると詠まれた平忠度の和歌が千載集では、詠み人知らずとされた事を嘆き、姿を消します。仕舞では、その夜、忠度の亡霊が現れ、和歌に名を入れてほしいと懇願し、一ノ谷の合戦で討ち死にした有様をお見せします。

仕舞 井筒

世阿弥の代表作で、極致の上花と自賛しています。仕舞では、在原寺に紀有常の娘の霊が業平の形見の直衣を着て現れ、共に過ごした往時を偲び、井筒の水にその姿を映して懐かしい業平の面影に浸ります。やがて明け方となり、女の霊は、花が凋むように匂いだけ残り、寺の鐘とともに消えてゆく有様を演じます。

仕舞 熊坂

美濃の国で旅の僧が出会ったのは、大盗賊の熊坂長範の亡霊で、義経との闘いで落命した有様を見せ、供養を頼むと姿を消してしまいます。仕舞では、義経との決闘の場面を、長刀を華麗に駆使して勇壮に演じます。

能 通小町

八瀬の里に住む僧の所に、毎日木の実や薪を届ける女がいます。ある日名を尋ねると、市原野に住む者と答えて消えます。僧が市原野に向いて叩くと、小野小町の霊が現れ叩きを喜ぶがそのあとを追って深草の少将の霊が現れ、小町を引き留めてその成仏を妨げます。生前少将は小町に恋をし小町にその気がないと知らず小町に言われた通りに百夜通ったが、あと一夜という夜に思いを果たせず無念の死を遂げ、地獄で苦しんでいるのです。少将の霊はそのことを細々と物語り恨みを述べるが、僧の甲いで二人揃って成仏します。